

令和3年度 支部活動等助成事業報告書



大阪生活サポート協会

はじめに

平素は、支部（事業所等）の皆様方のご支援、ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。一般社団法人大阪知的障害児者生活サポート協会（以下、「大阪生活サポート協会」という。）は、知的障がい児者・自閉症児者、家族のくらしを支援する事業を実施しています。

事業の一つである「支部活動等助成事業」は、平成 22（2010）年度から令和 3（2021）年度までの 12 年間で総額 28,742,364 円助成してきました。回を重ねるごとに、各支部への認知度が高まり、多くの支部から助成申請していただくことになりました。

しかし、コロナ禍の影響で支部活動等助成事業の助成申請が減少しています。令和 3（2021）年度におきましては、申請数 24 支部のうち 22 支部を助成決定するが、コロナ禍の影響で 2 支部が辞退、結果 20 支部へ助成となりました。

新型コロナウイルス感染症発生前の状況に戻ることは当面困難と考えます。コロナウイルス感染防止に配慮した環境下での事業の計画・実施を進めていただきたいと思います。

次の事項に着目して、今できることから計画・実施を進めてみませんか。

■障がいのある方は生活の主体者であり、権利の主体者です

日々支援に携わる者と障害福祉サービス利用者との関係性は、言うまでもなく対等の関係であります。時として、多種多様な業務を前にして利用者主体でなく支援者中心の支援のありようになっていないでしょうか。時には立ち止まって自らの支援を振り返っていただきたい。

令和 4（2022）年度から障がい者虐待防止のさらなる推進ということで、従業者への研修の実施が義務化されました。地区ブロック内での複数の支部が協働して研修会を開催するなど工夫されることを期待します。

■利用者参加型支援

「集まれグループホーム」は平成 26（2014）年度から平成 30（2018）年度までの 5 回開催。その後、コロナ禍の影響により、計画はするが実施することはできませんでした。令和 4（2022）年度は何とか実施の方向で検討を進めます。

地域で暮らす障がいのある方の参加しやすい、身近な地域での事業実施が重要と考えています。今、ちょっと頑張ればできることはないでしょうか。（例：余暇活動支援など）

■地域密着指向

参加しやすい身近な地域で支部が、あるいは複数の支部等が連携・協働して事業実施をする、これらの積み重ねが地域の支援力を向上させることになると確信しています。

現在大阪府下を 7 地区ブロック（北摂・北河内・中河内・南河内・泉州・大阪市・堺市）に分けています。地区ブロック単位での事業の推進に努めていただきたいと思います。

■ネットワークの構築

一法人での事業実施には限界があります。一法人完結から地域完結の事業実施の必要性を実感しています。特に防災活動に関しましては、身近な地域での各支部や障害福祉サービス提供事業所、関係機関・団体、地域住民等との連携・協働作業が必須であります。実践こそがネットワーク構築への一歩です。

本報告書の資料編に大阪生活サポート協会の「理念及び事業のあらまし」を説明しています。趣意をご理解いただき積極的に「支部活動等助成事業」をご活用いただければ幸いです。

大阪生活サポート協会は、各種事業と生活サポート総合補償制度で、生きづらさを抱えた方たちが「地域」という舞台上で「自分らしく生きる」ことのできる環境づくりに寄与したいと願っています。

令和 4（2022）年 7 月

一般社団法人 大阪知的障害児者生活サポート協会
理事長 安本 伊佐子

目次

はじめに

I 支部活動報告

1 (株) 業務企画センター	ビジネスプランニングセンター……………	1
2 (NPO) 光の友	ケアライフ光の友……………	2
3 (社福) ふたかみ福祉会	はびきの園……………	3
4 (社福) 大阪府肢体不自由者協会	守口障害者支援センターひだまり……………	4
5 (株) アベリア企画	ハミガキ広場……………	6
6 (社福) 北摂杉の子会	ジョブサイトひむろ……………	7
7 (社福) 友遊福祉会	友遊の里……………	9
8 (社福) 水仙福祉会	淡路こども園……………	10
9 (社福) さん・すまいる	さん・すまいる……………	11
10 (社福) 障友会	くるみの樹……………	13
11 (社福) くるみ福祉会	夢工房くるみ……………	15
12 (社福) おれんじ会	クッキー工房おれんじはうす……………	17
13 (NPO) ナポレオンフィッシュ	ナポレオンフィッシュ……………	18
14 (NPO) 福幸	フレンドリーⅡ……………	19
15 (社福) 風の会	風の会……………	20
16 (合同) 美ノ倉	やすらぎの苑 中津……………	21
17 (社福) 自立支援協会	ケアホーム アピカ……………	22
18 (社福) 大阪手をつなぐ育成会	支援センター中……………	23
19 (NPO) ダ・カー歩	ダ・カー歩……………	25
20 (社福) 大阪聴覚障害者福祉会	あいらぶ工房……………	26

Ⅱ 資料

令和3年度支部活動等助成事業実施要項

令和3年度支部活動等助成事業実施支部一覧

大阪生活サポート協会の理念と事業

- 表紙作品 「世界の家」三井 良介（第2さらの郷）

令和3年度 支部活動等助成支部事業報告

I 支部活動報告

1 支部名： ビジネスプランニングセンター

① 実施日：令和3年7月7日（水）

② 実施場所：当社スタッフ自宅

③ 対象者：当社スタッフ1名

④ 実施概要・目的

「コロナ禍における就業環境の整備・非対面事業推進の為のノートパソコン」の導入

⑤ 具体的内容

当社はデザインやアプリ開発などのIT業務中心でしたが一部封入などの軽作業も行っていました。コロナ禍においてはテレワーク等の導入で軽作業を担当できるスタッフに限りがあることと、今後の就業を目指すにあたってより多様な業務を経験して欲しいという思いから、動画の編集事業をスタートさせる事になりました。これまでも、パソコンを使った処理は施設内で行っていたのですが、可搬性のある機材は用意しきれておらずテレワークへの移行が問題でした。

そこでノートパソコンを導入し、動画の編集や音声の書き起こしや字幕への転用などを取り組んで、今後の業務拡大や事業の展開に備え人材育成へと結び付けたいと思い実行しました。

⑥ 成果

テレワークの利用にあたり、セキュリティが強固でトラブルの少ないiMac（パソコン）を購入し当該スタッフに貸与しました。付属の動画編集ソフトを使って音声のレベル調整や画像の明るさチューニングに加えて、不要部分のカット処理を行い自然なインタビュー動画を作成しました。

また、カット処理後の動画にタイトルやスライドをタイミング良く挿入し、視聴に耐える動画に仕上げていきました。さらに音声部分を書き起こし、ブログや字幕に転用できる書き言葉に修正を進めました。最後にYouTubeにアップされた動画に適切なタイミングで字幕を挿入し、視聴者に配慮された動画に仕上げることができました。

⑦ 今後の展望

このように動画処理の一連の作業をテレワークの中で仕上げることができ、動画作成サポートサービスを商品化し、契約も決まり、納品への作業もスムーズに進み始めています。パソコン一台で軽作業を担当しがちだった社員もテレワークに移行することができただけでなく、お客様に喜んでいただける仕事を担当することができ、今後の就業や自立に向けて非常に大きな一歩を進めることができました。

また、本人との毎日の面談もビデオ通話を使ってスムーズに行えるようになりました。



⑧ 収支報告

<収入>

<支出>

(円)

項目	金額	項目	金額
助成金	70,000	iMacパソコン一式	223,392
自己資金	153,392		
計	223,392	計	223,392

2 支 部 名：ケアライフ光の友

① 実 施 日：令和3年10月6日（水）

② 実施場所： ケアライフ光の友

③ 対 象 者：職員及び利用者 全員

④ 実施概要・目的

「防災用ポータブル電源」の整備

災害時、事業所内で避難しなければいけない時など停電時にポータブル電源があれば安心です。近隣の方達にも電源を利用していただけます。

⑤ 具体的内容

ポータブル電源の購入・設置

⑥ 成 果

台風シーズンに入り避難確保資機材等の準備をしていますが、ポータブル電源だけが調達できず困っていましたが、本協会の助成事業で発電機を購入することができ、万が一事業所内で避難することになった場合でも電源が確保できれば安心です。近隣の方達にもお役に立てることと思っております。

⑦ 今後の課題

大阪市の通達により各事業所の防災を強化するために、防災マニュアル、点検、避難確保計画等を作成。ポータブル電源を避難確保資機材に準備して、いつ襲ってくるかわからない豪雨災害、また、地震などに対して、事業所内で避難できる体制を作り、利用者様の安全を守ることを大前提にこれからも避難訓練等実施していきます。



⑧ 収支報告

<収入>		<支出>	
項目	金額	項目	金額
助成金	148,500	発電機	148,500
自己資金	0		
計	148,500	計	148,500

3 支 部 名： はびきの園

- ① 実 施 日： 令和3年10月8日（金）
- ② 実施場所： はびきの園内 2階食堂
- ③ 対 象 者： 車椅子や重度の知的障がいを持つ仲間を対象とした。 計14名
- ④ 実施概要・目的

「食事会（板前寿司を体験しよう）」の実施

コロナ禍で利用者は外出の機会が少なくなっており、好きな食事を取ることができる機会が少なく、重度の障がいがあることから行動範囲が限られ、多様な経験ができない。そのため、以下を目的として実施する。①寿司職人を園内に招き、日本の伝統的な食事である寿司を味わってもらう機会を提供する。②日頃障がいがあることで訪れることが難しい回らない寿司屋を疑似的に「はびきの園」内に設置し、文化に触れる機会とする。③日頃行う事のできないことを体験し喜びを感じることができる場とする。

⑤ 具体的内容

専門的な知識、技術を持った職人に依頼を行った。前日までの準備としてネタフダやおひつ、寿司下駄、寿司桶等を創作活動や購入により準備、高級寿司店での環境の雰囲気但至少でも味わえるような準備を行った。利用者の当日の喫食時は注文に応じて握ってもらう形での寿司の提供を行った。施設ではできない職人の技術に触れること、味覚嗅覚など五感を刺激しながら取り組みを実施することができた。職人から目の前におかれた寿司下駄に一貫一貫ずつ、握りをおいてもらい、寿司店でしか経験することができないような経験をする場とした。

⑥ 成 果

コロナウイルス感染症の観点から外出がしづらいことに加え、重度の障がいがあること

で普段から外食が難しい利用者が多い現状がある。またその中でも敷居の高い飲食店に行く機会は少ない。その中で人生の一つの経験として寿司店での雰囲気味わうことができた。また、日々の給食では食べることのできない刺身、寿司を日々活動を共にする集団で共に経験、喫食ができた。仲間やご家族様からは一定の評価を頂き、次回の活動に期待感を持つ仲間もいた。

⑦ 今後の展望

今回コロナウイルス感染症の問題もあいまって園内での体験となったが今後に関しては地域理解、利用者の経験の為に今回の楽しかった経験を今後の活動への基盤としていく。人生の中で経験することの少ない経験を準備し、どのような障がいのある仲間でもいろいろな経験のできる機会を味わうことができるように検討していく。また、同時に地域の理解を得ることができるように外に出て地域の方々と関わりながらの経験を検討、実施していく。

⑧ コロナ感染防止対策

調理員は手袋やマスク、フェイスシールド使用。検温、手指消毒、マスクの着用を実施。



⑨ 収支報告

<収入> (円) <支出> (円)

項目	金額	項目	金額
助成金	20,000	寿司ネタ	13,496
自己資金	5,076	寿司用具購入・制作費	11,580
計	25,076	計	25,076

4 支部名：守口障害者支援センターひだまり

① 実施日：令和3年10月21日（木）

② 実施場所： 守口障害者支援センターひだまり 守口市佐太中町7丁目5番5号

③ 対象者：利用者 35名 職員30名 計65名

④ 実施概要・目的

「第8回ひだまり秋祭り」の開催

職員と利用者が同じ時間を共有し楽しみ、交流を深める。

⑤ 具体的内容

開会の挨拶・食事屋台・食事会・演舞の催し・ビンゴゲーム・閉会の挨拶

⑥ 成 果

コロナ禍になり多くの行事が中止を余儀なくされる中、利用者様、職員のみでの開催にはなりましたが、当日は久しぶりのお祭りという事もあり普段では味わえないお祭りの雰囲気を楽しんで頂く事ができました。特に当事業所は重度重複障がいのある重度心身障がい者が多く通所しているので普段と違った雰囲気に表情がほころび、笑顔を見せてくれる利用者様もたくさんいらっしゃいました。屋台では鉄板で焼かれた海鮮焼きそばやフライドポテト、ハンバーグ等、普段の食事では楽しむ事ができない豪華なメニューを食べる事で皆さん満足した表情を見せて下さいました。ゲームでも一円玉落としやスーパーボウルすくいで、いつになく真剣な眼差しでゲームに没頭する利用者様の姿を見る事ができ、行事や催し物でしか味わえない非日常がいかにも良い刺激となり大切な事かという事を気づかせてくれました。ビンゴゲームや職員による居合の披露なども楽しまれ、充実した一日を過ごす事ができました。ありがとうございました。

⑦ 今後の展望

来年度は、コロナ禍が落ち着き、ご家族や地域の方などを招くことができれば規模を拡大し地域に密着した秋祭りを開催したいと考える。

⑧ コロナ感染防止対策

例年では地域の方々や関係機関の方々をお招きし、保護者の方々にも参加頂いていたのですが、今回については利用者様、職員のみの実施とさせて頂きました。送迎時の検温や消毒等の基本的な感染予防対策を実施、昼食は少数のグループに分かれ、食事の場所や時間帯が重ならない様に工夫し、屋外にもテントを出して飲食スペースを設置しました。座席には飛沫ブロッカーを設置、食事介助の職員はエプロンにマスクとアイガードを着用して感染予防対策を徹底しました。催し物の開催も屋外に舞台を作り、間隔を開けて実施する等の対策を行いました。



⑨ 収支報告

<収入>

<支出>

(円)

項目	金額	項目	金額
助成金	80,427	食事屋台材料費	50,173
自己資金	0	ゲーム屋台材料費	11,004
		催し物景品代金	19,250
計	80,427	計	80,427

5 支 部 名：ハミガキ広場

- ① 実 施 日：令和3年11月6日（土）
- ② 実施場所： 口腔ケア研修：ハミガキ広場作業場 親睦会：ステーキハウス華
- ③ 対 象 者：ハミガキ広場利用者・保護者・スタッフ 計25名
- ④ 実施概要・目的

「口腔ケア研修及び親睦会」の実施

概要⇒歯科検診実施に伴う、口腔ケア研修及び利用者・保護者・スタッフの親睦会の実施。目的⇒虫歯予防・歯周病予防等を含む口腔ケアを目的として適切な歯ブラシ・歯間ブラシ等器具の使用方法の理解を口腔ケア研修では目的として実施。親睦会では、コロナ禍中、制限される生活内容に対して慰労と家庭生活による情報の共有を目的として実施。

⑤ 具体的内容

協力歯科医院（歯科医師・衛生士）訪問による利用者対象歯科検診を11月2日実施に伴い、歯科器材メーカーの方を招き口腔ケア備品（歯ブラシ・歯間ブラシ・ハミガキ剤等）の使用説明及びブラッシング指導を口腔ケア研修で実施。親睦会では、コロナ禍の中での生活制限の慰労を兼ね利用者・保護者スタッフの親睦と保護者・スタッフ間の支援の方向性の確認と情報共有を図る。歯科検診時に歯科医師より利用者ごとに口腔ケア状況の確認を行い、各々に適した歯ブラシのタイプと歯間ブラシを含み、その他器具の必要可否の確認の上、歯ブラシ、歯間ブラシ・ハミガキ剤等口腔ケア材料を配布、また歯垢チェック剤を使用して磨き残しの確認とブラッシング指導により磨き残し対策を行う。研修終了後、各自に適した口腔ケア商品の進呈を行う。

⑥ 成 果

歯科研修・口腔ケア研修の実施により現状の口腔状態（虫歯の有無・歯石歯垢の付着状況等）の確認と、通常何気なく行っている歯ブラシによる磨き残しの有無の確認と理解により適切な歯みがき（ブラッシング）の必要性を理解した。親睦会におきましては、保護者の参加が予定より少人数であったが、参加された保護者の方々とはスタッフ一同情報の共有化がなされたと考える。

⑦ 今後の展望

利用者各々の口腔ケア研修の実施により現状の口腔状態（虫歯の有無・歯石歯垢の付着状況等）の確認と、通常何気なく行っている歯ブラシによる磨き残しの有無の確認と適切な歯みがき（ブラッシング）の必要性を理解することができた。親睦会におきましては、保護者参加者が予定より少人数であったが、参加された保護者の方々とはスタッフ一同情報の共有化がなされたと考える。

⑧ コロナ感染防止対策

口腔ケア研修につきブラッシング指導等マスクを外す機会の場合、利用者間の一定距離を保ち座席間も対面になることなく飛沫対策を実施。また、常時、空気除菌機材を稼働しての対策を実施。マスクの配布・手指清浄アルコール液や、除菌ペーパー等の使用を行い器具消毒を実施。



⑨ 収支報告

<収入>

<支出>

(円)

項目	金額	項目	金額
助成金	70,000	口腔ケア研修 講師代	5,000
自己資金	11,110	口腔ケア研修 材料費	39,200
保護者参加費用	3,000	慰労親睦会	39,910
計	84,110	計	84,110

6 支部名：ジョブサイトひむろ

① 実施日：令和3年11月10日（水）

② 実施場所：社会福祉法人北摂杉の子会 萩の杜、ふれっとなさはら、ふれいすBe、
ジョブサイトひむろ
社会福祉法人北摂杉の子会 杉の子農園（大阪府高槻市奈佐原3丁目15）高
槻地域生活総合支援センターふれいすBe内 Café Be（カフェビー）

③ 対象者：法人内事業所ご利用者、職員、ボランティア、地域のお客さま 300名

④ 実施概要・目的

「北摂杉の子会 収穫祭ランチフェスタ2021」の開催

- ・農園産の野菜をご利用者みんなに食べてもらう
- ・感染防止策を徹底しながら、できるだけ青空の下で食べてもらう

⑤ 具体的内容

- ・高槻市内の法人3事業所（萩の杜、ふれいすBe、ジョブサイトひむろ）のご利用者、職員、ふれいすBeに併設するカフェのお客様分（合計約300食）の昼食として、農園産野菜を使った料理を提供する。
- ・季節の秋野菜を取り入れ、彩り良く栄養バランスの良い献立を、法人栄養士が立案する。
- ・通常の給食との差別化をはかるため、非日常的な弁当容器に盛り付ける。
- ・農園産野菜を使用した、法人内事業所の自主製品も献立に取り入れ、ご利用者の生産活動に対する達成感や、モチベーション向上につなげる。
- ・コロナ禍の閉塞感のなか、衛生面・安全面に配慮したイベントを開催し、ご利用者の楽しみにつなげられる工夫をする。

⑥ 成 果

- ・非日常的な豪華なお弁当を召し上がることができ、多くの方に喜ばれた。
- ・完成した弁当やご利用者の食事風景を記事にして、法人全事業所に配布することで、関わって頂いた全ての方に感謝の気持ちを伝え、モチベーション向上につながった。
- ・農園運営に関わる職員の方に、感謝の気持ちを伝え、関係性向上につながった。
- ・コロナ禍でありながら、農園産物を活かした安全なイベントを実施できた。
- ・昨年度は事業所内での開催だったが、今年度は2年振りに4事業所の33名が農園で収穫の体験やお弁当を食べることができた。
- ・農園での収穫祭は、密を避けるため人数制限をしていたが、それぞれの事業所が近くの公園や思い思いの場所で、青空の下（直前にわか雨に見舞われたが）お弁当を食べることができたため、ご利用者、職員ともに気分転換やリフレッシュにつながった。

⑦ 今後の展望

- ・できれば以前のように、地域住民を交えたイベント形式での開催が望ましいと考える。
- ・ただ、新型コロナの収束が見えない中、今後もその時々状況に応じて、ご利用者の安心安全はもちろんだが、ニーズに応えられるような方法を検討していきたい。

⑧ コロナ感染防止対策

なさはら農園での食事については参加事業所全体で人数調整、タイムスケジュールを組み、その場で密にならないように図った。また、いましろ大王の杜に出掛けたグループについても同様に少人数で、距離を図って座り食事を摂った。事業所内でも距離を開けての着席、食堂ではパーテーションを設置して食事を摂った。どの食事場所でもアルコール消毒、食事以外のマスク着用を徹底した。



⑨ 収支報告

<収入>		<支出>	
項目	金額	項目	金額
助成金	150,000	野菜	8,000
自己資金	10,746	飲料	6,633
		コロケ・デザート	89,650
		弁当箱 (300ヶ)	52,140
		割り箸	330
		パッケージシール	2,228

		現場装飾	1,765
計	160,746	計	160,746

7 支 部 名：友遊の里

- ① 実 施 日：令和3年11月13日（土）・11月20日（土） 計2回実施
- ② 実施場所： 社会福祉法人 友遊福祉会 友遊の里及び周辺地域（檜田地区）
- ③ 対 象 者：11月13日（土） 小中高生7名 支援者2名 ボランティア2名 職員4名
11月20日（日） 小中高生7名 支援者4名 ボランティア1名 職員4名
計31名

④ 実施概要・目的

「自然体験事業（檜田の自然から学ぶ ASOBI LAB）」の実施

⑤ 具体的内容

高槻市内の放課後デイサービス等の療育機関に対してチラシ等を配布して、希望があった療育機関の子ども達と支援者をお招きして、農業体験と自然体験を通じて学んでいただけるように次のプログラムを実施しました。

- (1) 農業体験（しいたけ狩りとバーベキュー体験を通じた食育）
- (2) 自然体験
 1. クラフト活動（倒木を活用したキーホルダーづくりと、のこぎり体験）
 2. 防災学習（周辺地域の散策と倒木被害の見学）
- (3) 新型コロナ感染防止のための取り組み
- (4) 今後の事業展望（計画）のための広報活動

⑥ 成 果

街づくりコンサルタントと協議して発達に課題のある小中高生（以下、子ども達）が楽しむことができる「ASOBI LAB」を実施しました。（高槻市内の放課後デイサービス事業所にチラシを配布したところ、当初は中高生対象にしていたが小学生も対象にしてほしいという意見があったので、小中高生に対象を拡大しました。）

参加した子ども達は興味津々な様子でしいたけ狩りやクラフト活動、檜田地域の倒木についての説明を聞き、活動中はお互いに協力する姿が見られたり、どの活動にも積極的に参加されていました。

参加された放課後デイサービス事業所の職員からは「コロナ禍で外出するにしても同じところばかりで、自然の中でしいたけ狩りや木工体験等ができる企画に参加できたことがとてもありがたい。」「今後このような企画があればぜひとも参加したい。」という言葉いただきました。また、今回の実施内容をSNSに掲載したところ他の放課後デイサービス事業所からも反響があったため、2022年2月にASOBI LABの詳細を周知するためのチラシを配布する予定である。

⑦ 今後の展望

当事業をモデルとして障がいのある・なしに関わらず、子ども達に対して有料で自然体験事業を提供します。（利益は当施設利用者様の工賃として配分）また、大人向けのコン

テントを開発して将来的には関係者との連携によるアグリツーリズム（グリーンツーリズム）の実施を働きかけ、地域課題の解決及び活動性に繋げて行きたいと思います。

⑧ コロナ感染防止対策

来所された際に検温、手指消毒、マスクの着用をしていただきました。館内は常時換気や加湿を行い、活動は2～3名の2グループに分かれて屋内と屋外で実施しました。

BBQは机や椅子の消毒を行い、ソーシャルディスタンスを保つことができるように机や椅子の間隔を空けて設置しました。割り箸や紙皿等使い捨てができるものを使用しました。また、調理や配膳の担当を決めて密集や密接しないように行いました。



⑨ 収支報告

<収入>

<支出>

(円)

項目	金額	項目	金額
助成金	150,000	消耗品費	39,122
自己資金	15,150	器具費	56,724
		印刷費	14,956
		食料品費	13,148
		委託費	20,000
		雑費	21,200
計	165,150	計	165,150

8 支部名：淡路こども園

① 実施日：令和3年11月20日（土）

② 実施場所：法人本部3階（大阪市東淀川区小松1丁目13番21号）

③ 対象者：法人内施設の責任者クラス 計42名

④ 実施概要・目的

「改めて松本先生に聞く『本人主体の支援とは』～岡村理論に学ぶ～」職員研修会の実施

⑤ 具体的内容

全員が『本人主体の支援とは』の本を読んだ上で、内容について事前に3回の話し合いを行っている。今回は直接岡村先生のもとで研究をされてきた松本英孝先生にご講演をいただき、岡村先生の「主体性の社会福祉」という揺るがない信念をもたれることにつながった岡村先生の背景等を前半に伺った。お人柄の分かるエピソードも盛り込まれ

ていたので参加者も興味深く聞いた。後半は岡村先生は主体的側面に着目し、支援することが何より大切と繰り返し述べられているが、その中に文化・娯楽が人間にとって基本的要求として必要であること、障がいのある人の理解について現場から地域や社会に向けて、実践からわかったことを発信していくことが私たちに求められるというお話で、仕事をしていく上で、大きな指針となる内容であった。

⑥ 成 果

岡村先生の考えを理解するのに、岡村先生の背景を知ることでも興味深く、“難しい、わかりにくい”→腑に落ちる感じがした職員が少なくなかった。現場の実践をもとに、もっと発信していくことが大切なんだと自覚した職員が多かった。

⑦ 今後の展望

岡村理論、本人主体の支援については何回か研修ただけで理解できるものではなく、また職員各々が現場で経験する中で実感としてわかってくる部分もあると思うので、継続発信についてはどういう形で実現していくのか具体的に考えていきたい。

⑧ コロナ感染防止対策

参加者の検温、手指消毒、間隔を空けての机の配置、パネルパーテーション使用。



⑨ 収支報告

<収入>

<支出>

(円)

項目	金額	項目	金額
助成金	150,000	講師謝礼・交通費等	83,000
自己資金	763	講師書籍・振込手数料	27,874
		昼食代	25,127
		会場費	13,000
		郵送費・備品	1,762
計	150,763	計	150,763

9 支 部 名：さん・すまいる

① 実 施 日：令和3年12月4日（土）

② 実施場所：さん・すまいる

③ 対 象 者：さん・すまいる利用者15名 支援員8名 計23名

④ 実施概要・目的

「避難所体験をしよう」緊急時の体験を実施

⑤ 具体的内容

講話のみではイメージできにくいので、実際に映像を見ながら津波によっておこる様子を説明。大阪駅前の設定で水が押し寄せてくると車も流されてしまうという内容のCGによるシュミレーションをみんなで見る。その後、南海トラフ巨大地震が起きたら、地震だけではなく、淀川の水が逆流してきて決壊する話、決壊すると洪水となって水が押し寄せてくる説明を行う。大阪駅のCGを使うことで自分たちの住んでいる地域でも起こるんだという事を学習した。

- ・地震が起きて、机の下に隠れる。
- ・全員3階まで避難、食料等持てる人は持って3階へ垂直避難する。車いす利用者は担架で3階へ移動。
- ・車いす利用者用にダンボールベッドの組み立て、その他利用者・スタッフは寒さをしのぐため床にダンボールを敷く。
- ・閉じ込められたら、ここで何日間か過ごす説明をする。
- ・簡易トイレの使い方の説明。
- ・上着等ないので、アルミの防寒用シートを着てみる、防災用毛布使用。
- ・水分補給(7年・15年保存水)。
- ・防災食の試食。
- ・手動で動かすラジオの体験。

⑥ 成果

日常の避難訓練では、火災は外へ逃げる、地震は収まるまで机の下等に隠れて、収まると近くの何もない駐車場まで避難する。今回は、水が来たらどこへ逃げたらよいかという学習ができた。施設のある地域は、2階の半分まで水がくると想定されている地域なので3階まで逃げるという確認が行えた。

シュミレーションを見ながら説明をしたことによって、車いすの方からは、「車いすの充電はどうなるのか」という質問があり、一番大切なのは命で、助かるためには車いすは置いたまま逃げます。車いすは体の一部として大切なものですが車いすは作り変えることができるけど、命は一つしかないので優先しなければならないという説明ができた。理解しておられると思った人でも、このように思っておられたのだという事を知るきっかけになった。

防寒のアルミをみんなに着用してもらった。普段決まった自分の衣類しか身に着けることのできない人も含めて全員身に着けることができた。

障がいのある方は、「生きるため」という事を理解しての対応は難しく、いやと思ったら対応できないので、長期保存のできる水をみんなが飲めるかどうかの不安があったが、全員飲めた。

防災食に関しては、過去にも食べたことはあったが、こういう過ごし方をする事をわかってもらうために、その場でカセットコンロで湯を沸かし非常食を作って食べた。いろいろな種類が入っている物を用意し、偏食のきつい利用者から選んでもらうようにしたが、一口飲みこむだけしかできない人がいた。そのことも踏まえて、食べられるものを非

常食で用意しておく必要性を学んだ。

簡易トイレやラジオは一部の方の体験になった。トイレを使用することができるかの課題は残った。

職員間で利用者を3階まで誘導する体験を行うことで利用者の動きを見ることができた。

⑦ 今後の展望

洪水が起きた時のイメージを持ってもらえたと思うので、3階への垂直避難訓練は今後も定期的に続けていきたい。生きるために食べること、排泄するという点に関して大切だと考えており、どの方にも対応できるように工夫を重ね取り組んでいきたい。

⑧ コロナ感染防止対策

向かい合わせにならず、同一方向を向いての食事や隣との間隔を意識するような声かけ。手洗いができないため、手指消毒や除菌シートの使用を促す。他者と物品を共有しないよう各自の管理を促すなど防止に努めた。



⑨ 収支報告

<収入>

<支出>

(円)

項目	金額	項目	金額
助成金	150,000	防災食	10,480
自己資金	42,481	保存水	6,140
		担架	21,700
		災害救助用毛布	72,000
		カセットコンロ	7,196
		防寒ポンチョ	10,230
		ATエコ段ボールベッド	16,940
		AT防災トイレセット	10,000
		トイレ用テント	14,500
		ランタン・電池	19,734
		手動式ラジオ	3,561
計	192,481	計	192,481

10支部名：くるみの樹

① 実施日：令和3年12月8日（水）20周年記念昼食会

令和3年12月17日（金）20周年記念式典

② 実施場所： くるみの樹事業所内（大阪府堺市中区東山256-6）

③ 対象者： 20周年記念昼食会

くるみの樹 利用者17名 くるみの樹 職員11名
来賓3名 ご家族6名 合計37名

20周年記念式典

くるみの樹 利用者19名 くるみの樹 職員11名
来賓3名 ご家族11名 合計44名

④ 実施概要・目的

「くるみの樹 創立20周年記念昼食会・式典」の開催

くるみの樹の創立20周年を祝う、昼食会と式典の開催、記念品の作成を行う。

⑤ 具体的内容

- ・20周年記念昼食会では、お寿司屋さんに出張してもらい、皆さんの目の前で新鮮なお寿司を握ってもらう。
- ・20周年記念式典では、挨拶/スライド上映会/利用者さんの発表/茶話会を行う。
- ・20周年を記念して、Tシャツ・ボールペン・タオル・フォトブックの作成を行う。

⑥ 成果

記念事業を実施の際、新型コロナウイルスの感染状況が心配されたが、緊急事態宣言も解除され、12月上旬～中旬の間は堺市でも新規感染者数のごく僅かな状況という、タイミングでの記念事業の実施となった。感染防止策をしっかりと行い、ご来賓・ご家族を招いての、記念事業を2日間に分けて開催した。

記念の昼食会では、新型コロナの影響で外食がしにくいという状況がある中、お寿司屋さんに出張してもらい、目の前で新鮮なお寿司を握ってもらえるという事で、利用者さん・ご来賓・ご家族の皆さんに大変好評であった。

記念式典では、くるみの樹の20年の歴史を振り返るスライドショーを上映し、利用者さんからのリクエストであった鏡開きも行い、茶話会の際に、くるみの樹の利用者さんが、20周年を祝うダンスやマジックショーを披露した。

現在のくるみの樹には、創立当初を知っている職員がいない状況であり、20周年の記念事業を実施する事で、くるみの樹の創立までのご家族のご苦労や想い等、原点に立ち返る事のできるいい機会を頂きました。原点を知ること、今後の支援の在り方にもいい影響を与えてくれると思います。

この様な、イベントが開催できたのは、一般社団法人 大阪知的障害児者生活サポート協会様の助成事業のおかげです。ありがとうございました。

⑦ 今後の展望

いつ新型コロナウイルスが終息するのか、まだまだ先の見通しの無い状況が続きますが今後も感染防止対策を講じながら、利用者さんが楽しめる取り組みを企画・実施したいと思っています。

⑧ コロナ感染防止対策

- ・会場入室前に来場者の検温・手指の消毒・マスクの着用の徹底
- ・会場内の随時の消毒・換気
- ・会場各所に消毒液の設置
- ・空気清浄機を複数台設置
- ・テーブルにアクリルパーテーションの設置
- ・座席が対面にならない様に席の配置
- ・昼食会や茶話会で事業所のお皿やコップを使用せず、紙コップや紙皿スプーンやお箸等、パッケージされた個人用のものを準備。



⑨ 収支報告

<収入>

<支出>

(円)

項目	金額	項目	金額
助成金	150,000	昼食会代(出張寿司)	150,000
自己資金	109,236	記念式典茶話会代	20,808
		記念Tシャツ作成費	39,039
		記念タオル作成費	18,300
		記念ボールペン作成費	10,835
		記念フォトブック作成費	38,254
計	259,236	計	259,236

11 支 部 名：夢工房くるみ

- ① 実 施 日：令和3年12月25日(土)
- ② 実施場所：サンヒル柏原
- ③ 対 象 者：夢工房くるみ利用者、職員 計63名
- ④ 実施概要・目的

「忘年会」の実施

昨年8月に利用者・職員共にワクチン接種も全員完了したことから、1年の労をねぎらい、協働の意識を高めるための「忘年会」を実施した。

コロナ禍でストレスを感じている利用者の「楽しみ」の創出、また集団としての意識を高め、みんなで頑張ったことを評価し、協働、助け合いの気持ちを再確認することを目的とした。

⑤ 具体的内容

豪華な料理を食べながら1年間の活動をスライドショーで振り返り、またビンゴゲームをクリスマスと合わせ、様々な景品を準備した。

加えて、今年度理事長が交代したため、新旧理事長の歓送迎会も併せて取り組み、新しい理事長に「夢工房くるみ」の利用者に直に関わっていただく機会を作った。

⑥ 成果

- ・「忘年会」を楽しみにされている利用者も多く、コロナ禍で「楽しみ」な活動が減少している中でも取り組めたことに、ほとんどの利用者が喜び、参加率も高かった。
- ・普段は相性のよくない利用者同士でも、「忘年会」の間は一緒に参加し、楽しい雰囲気を共有することができた。

⑦ 今後の展望

- ・普段の生活では利用者個々に合わせた小グループでの活動が基本となるため、集団としての仲間意識が希薄になってしまう。全体行事は仲間意識を再認識する場として必要であり、「忘年会」はほとんどの利用者が楽しめる全体行事であり、不可欠な取り組みであると認識できた。
- ・コロナ禍であるため、今後の開催についても、ワクチン接種や3密に留意した環境を整え、唯一の全体行事である「忘年会」を開催していきたい。

⑧ コロナ感染防止対策

- ・手洗い・うがい・手指消毒の徹底
- ・会場の大きさに考慮し、一緒に食事をする人数を50人に制限した。
- ・マイクは使用の度に、消毒を行った。



⑨ 収支報告

<収入>

<支出>

(円)

項目	金額	項目	金額
助成金	150,000	施設使用料、昼食代	158,080
自己資金	47,445	利用者ケーキ代	13,533
		利用者景品、雑費	19,832
		理事長歓送迎会用花代	6,000
計	197,445	計	197,445

1.2 支 部 名：クッキー工房おれんじはうす

- ① 実 施 日：令和3年12月24日（金）
- ② 実施場所：クッキー工房おれんじはうす 2階
- ③ 対 象 者：利用者21名、職員8名 計29名
- ④ 実施概要・目的

「クリスマス会（カラオケ）」の開催

目的はコロナ禍の中、楽しみを味わう機会を設ける。

⑤ 具体的内容

レンタルしたカラオケ機材にて、全員が2回は歌えるような時間配分をしました。

昼食はピザを注文し、ジュースで皆で楽しみ、午後のカラオケが終わったあとで、クリスマスケーキを食べました。

最後にクリスマスプレゼント（お菓子の詰め合わせ）を利用者さん全員に配り、クリスマス会は皆楽しんで終了しました。

⑥ 成 果

本年度の一泊旅行が中止になり、コロナ禍で仕方がないとわかっているにもかかわらず、利用者さんは皆落ち込んでいました。2年連続の中止はやはりこたえました。

なんとか元気を、と職員と利用者さんそろってクリスマス会を準備から開催まで楽しく行いました。皆、かなり楽しかったようで（特にカラオケ好きな利用者さんが多いので）、なんとかこのコロナ禍のなかでも、少しは気晴らしになったようです。

利用者さんの元気を取り戻せたことが、最大の成果です。

⑦ 今後の展望

今年こそは例年通り、たくさんのレクリエーションを行い、利用者さんに仕事だけでなく、生活の上での娯楽も提供できるようにしたいと考えております。なかでも、連続中止になっている一泊旅行はぜひ行きたいと思っています。

⑧ コロナ感染防止対策

- ・手洗い・うがい・消毒の徹底
- ・マイクの使用ごとの消毒
- ・会場テーブルなどの事前事後消毒
- ・着席場所の間隔確保



⑨ 収支報告

<収入>		<支出>	
項目	金額	項目	金額
助成金	70,000	カラオケ機器レンタル	34,100
自己資金	33,056	昼食代	43,185
		クリスマスケーキ	14,300
		クリスマスプレゼント	11,471
計	103,056	計	103,056

13 支 部 名：ナポレオンフィッシュ

① 実 施 日：令和4年1月14日（金）

② 実施場所： 港納税協会（大阪市港区磯路3-19-4-3階）

③ 対 象 者：利用者、職員 計27名

④ 実施概要・目的

「出張回転寿司」の実施

コロナウイルスの影響でなかなか思ったようにレクリエーション等の実施が難しく、特に事業所外への外出や外食イベントが実施できていなかったため、外食気分を味わってもらえたらと思い実施することになりました。

⑤ 具体的内容

福祉施設に特化して出張回転寿司を行っている業者さんに依頼し、事業所内で回転ずしを行いました。回転レールを準備していただき、職人さんも2名来られ、その場でお寿司を握って提供していただきました。

⑥ 成 果

コロナの影響もあり外食を控えている方も多かったため、本格的な回転ずしを久しぶりに体験することができ皆さん満足そうな様子でした。また、業者さんが福祉施設に特化して行っているということもあり、色々な配慮をしてくださったりと、実施自体スムーズに取り組むことができました。

⑦ 今後の展望

コロナ禍であるため余暇活動の提供については制限されることが多いですが、その中でも安全にできることを模索しながら、利用者さんが作業だけでなくリフレッシュできる機会を設けていきたいと考えます。

⑧ コロナ感染防止対策

人数は半分ずつとし2交代制で行いました。食べる人と待っている人の空間も分けるため、事業所と同じビル内の別フロアを借り、そこで回転ずしを実施しました。

回転ずしでは食事前に手洗いと消毒、対面席との間にアクリル板を設置しました。



⑨ 収支報告

<収入>

<支出>

(円)

項目	金額	項目	金額
助成金	70,000	出張回転寿司代	83,061
自己資金	13,061		
計	83,061	計	83,061

14 支 部 名：フレンドリーⅡ

① 実 施 日：令和3年10月4日（月）

② 実施場所：フレンドリーⅡ事業所内

③ 対 象 者：スタッフ

④ 実施概要・目的

「防災用発電機」の購入

⑤ 具体的内容

災害時の備えとして、発電機を購入し、スタッフにて使用方法の確認を行った。

⑥ 成 果

主に食材調理、携帯電話充電、夜間電機確保のためにスタッフ誰でもが安全に使いやすいソーラーパネルで充電もできるタイプを購入。スタッフにて使用方法の確認を行った。購入する事により、災害時に備えができスタッフ、利用者共に災害時の安心につながる事ができた。使い方も従来の物に比べてとても簡単で、スタッフ・利用者共に共有できた。

⑦ 今後の展望

地域の方々とも連携し当方で発電機があるというアナウンスを拡げていきたい。発電機だけでなく、他の防災に係る避難経路、備品等への意識を高め、今後に備えていき、より防災意識の向上に努めていきたい。



⑧ 収支報告

<収入>

<支出>

(円)

項目	金額	項目	金額
助成金	70,000	ポータブル防災発電機	140,861
自己資金	70,861		
計	140,861	計	140,861

15 支部名：風の会

- ① 実施日：令和4年2月～3月 播種～収穫～包装～出荷
- ② 実施場所：八尾市神宮寺の施設グループホーム裏 水耕栽培ハウス
- ③ 対象者：施設利用者1グループ 4名で構成を5チーム 職員3名
- ④ 実施概要・目的

「水耕栽培用備品」の購入

水耕栽培を、就労作業に取り入れることにより障がいのある人に野菜の生産から販売を通じた就労経験をすることでやりがい、充実感、喜びを感じてもらおう。利用者の方々への安全安心の野菜の提供ができ自給自足を目指す。給食用の副菜、利用者のご家族への販売、施設カフェでの使用。

⑤ 具体的内容

ハウス建設がコロナの影響で9月の予定が12月になり活動の時期がずれこむことになりましたが1月には完成し、2月の収穫ができるようになりました。

播種～植え替え～収穫～出荷と約1ヶ月のサイクルでカリキュラムを組み一連の作業をグループで行うようにし、チームで交代しながら多くの利用者が携わることができるようにしています。ほうれん草、サニーレタス、レタス、三つ葉など葉野菜4種類を栽培、購入した道具により収穫後の作業が短時間でスムーズに行えております。

⑥ 成果

規格の大きさに育った野菜の色、形状、重量チェックをして収穫、水洗い、袋詰め、シーラー止め、と一連の作業を利用者一人一人が購入させていただいた道具を使うことで分担して行え、短時間で負担なくスムーズな包装作業が行えています。

特に野菜袋詰め機は利用者が野菜を入れるだけで、きちんと形の整った状態で袋に収納することができ気楽にだれでも使えるので、無くてはならないアイテムになっている。

⑦ 今後の展望

生産～出荷までのスケジュールを立てられるので就労支援が行いやすくなる。農業と福祉の連携が一層進み障害者雇用の魅力あふれる職域となり安定した福祉の両立、新たな職域として注目を集め、波及効果が広がっていくと思われる。



⑧ 収支報告

<収入>

<支出>

(円)

項目	金額	項目	金額
助成金	150,000	野菜袋詰め機 2台	74,800
自己資金	4,066	野菜結束機	32,100
		野菜軽量秤	8,050
		足踏用シーラー	19,360
		三角包装袋 FV新鮮大	10,098
		三角包装袋 無地大	9,218
		代引き手数料	440
計	154,066	計	154,066

16 支 部 名：やすらぎの苑 中津

- ① 実施日：令和3年12月24日（金）
- ② 実施場所：やすらぎの苑 中津 事業所内
- ③ 対象者：利用者・職員23名
- ④ 実施概要・目的

「コミュニケーション交流会」の実施

事業所又は施設外にてコロナ禍の中、自粛生活を強いられている利用者の方に、感染予防を徹底し、楽しい交流会を実施する。

⑤ 具体的内容

久々の交流会にご利用者の方々もとても楽しみにしておられ、この日を活力に日々の作業や訓練を一生懸命頑張ってくれました。今回は体調など事業により参加できない方の分も参加されているご利用者さんが代わりに協力して参加型として行えるように工夫しました。ご自身で選んだカードを元にビンゴゲームを行いました。リーチになった

方は手を挙げて伝え、ゲームが苦手な方は近くにいるご利用者の方が一緒になってゲームを進めたり協力し合う場も多く見受けられました。

その他、きちんと司会者の話を聞きルールを守り、とても楽しい雰囲気の中で今年は年末に交流会ができたことが、うれしく思います。ご利用者の方も職員の方も大盛り上がりでした。

⑥ 成 果

ご利用者の方が交流の場としてコミュニケーションがとれていた。周りの方への思いやる行動が見受けられた。いつも以上に笑顔あふれる楽しいひと時になっていた。職員とご利用者さんのコミュニケーションも取れる機会となった。

⑦ 今後の展望

今後も感染予防に徹底しながら、このような機会も大切にしていきたいと思います。このたびは助成のほど、ありがとうございました。

⑧ コロナ感染防止対策

各テーブルへの飛沫防止用アクリルパーテーション、事業所内の換気、マスク着用アルコール消毒の実施。



⑨ 収支報告

<収入>

<支出>

(円)

項目	金額	項目	金額
助成金	70,000	ビンゴ景品代等	71,555
自己資金	1,555		
計	71,555	計	71,555

17 支 部 名：ケアホーム アピカ

- ① 実 施 日：令和4年3月21日（月）
- ② 実施場所：グループホームベランダ・居室
- ③ 対 象 者：グループホーム利用者・管理責任者
- ④ 実施概要・目的

「災害発生時の電源確保のための発電機」の整備

2018年9月4日台風21号の際、停電が3日間続きました。暗闇や暑さのなか、生活支援は困難でした。停電になっても、発電機を使用して、入居者への支援を継続できるよう

にする。

⑤ 具体的内容

停電を想定、発電機を使用して、フロアライト・サーキュレーションを作動させる。

⑥ 成 果

準備（オイルの注入）に手間取り、なかなか発電機を作動することができませんでした。また想像以上の騒音でした。一酸化炭素中毒にならないよう、居室と発電機（野外）を繋ぐ、延長コードの必要性を感じました。

⑦ 今後の展望

グループホームでの防災訓練にて、発電機の手動についてサービス管理責任者からホームスタッフへの伝達研修を行います。また、入所者にも、発電機の手動を知ってもらい、災害時でもグループホームでの暮らしが継続できることを知ってもらおう。



⑧ 収支報告

<収入>

<支出>

(円)

項目	金額	項目	金額
助成金	70,000	発電機 エネポ	98,000
自己資金	36,461	カセットボンベ	6,304
		エンジンオイル	1,720
		オイルジョッキ	437
計	106,461	計	106,461

18 支 部 名：支援センター中

① 実 施 日：就労継続支援B型：令和3年11月12日（金）・19日（金）

・26日（金）12月3日（金）、生活介護：令和4年3月19日（土）

② 実施場所：就労継続支援B型：カップヌードルミュージアム、大阪くらしの今昔館
津波・高潮ステーション

生活介護：支援センター中・天山閣

③ 対 象 者：就労継続支援B型：利用者16名 職員7名 計23名

生活介護：利用者10名 職員8名 計18名

④ 実施概要・目的

「学習会（社会見学・コロナ禍におけるマスク会食）」の実施

事業別に分かれ利用者の希望を聞きながら学習会を実施した。生活介護については新型コロナウイルス感染拡大の中、新しい生活様式を学ぶ機会として実施した。就労支援継続支援B型については、津波から自分を守る、大阪の歴史から生活の変化を学ぶなど学ぶ機会を選択してもらい取り組む。

⑤ 具体的内容

カップヌードルミュージアム、大阪くらしの今昔館、津波・高潮ステーションの社会見学・学習、天山閣での会食

⑥ 成果

就労継続支援B型の学習会については、利用者から興味がある学びたいテーマを聞き、支援員はテーマに沿う社会見学先を準備し、利用者を選択してもらい実施した。移動等については、事前に行く先の確認や見学先の内容を利用者と共に確認を行った。

結果、利用者自身で行く先までの切符の購入や入館料の支払いをスムーズに行うことができた。また、利用者から「昔の映像や電化製品が見れて良かった」「インスタントラーメンの開発が学べた」と感想を話されていた。生活介護については、新型コロナウイルスがまん延する中、府から示された「マスク会食」について、学び、実践する機会を設けた。まず、センター内でマスク会食についてYouTubeを利用して学び、職員が実践、その後利用者と職員で取り組んだ。本番は、天山閣を利用して会食を実施、事前にセンター内で練習したことで、本番も利用者同士で会話する時は、マスクをして楽しんだ。

⑦ 今後の展望

次年度は新型コロナウイルス感染症との共存を基本に少しでも経験（体験）を積んでもらう企画を実施したいと考える。

⑧ コロナ感染防止対策

マスク会食の事前学習・実践



⑨ 収支報告

<収入>

<支出>

(円)

項目	金額	項目	金額
助成金	55,140	社会見学入館料	5,200
自己資金	15,000	交通費	10,940

		会場・昼食代	54,000
計	70,140	計	70,140

19 支部名：ダ・カー歩

- ① 実施日：令和4年3月30日（水）
- ② 実施場所：ホテル プラザオーサカ
- ③ 対象者：法人各事業所 利用者・職員 計50名
- ④ 実施概要・目的

「食事会」の実施

コロナ禍の中、自粛生活を余儀なくされている利用者の生活を楽しく豊かにする活動として「新年会」を企画していたが、感染拡大のため延期。まん延防止等重点措置も解除されたため、新年度を迎えるにあたり利用者と職員の懇親を深めるために実施した。

- ⑤ 具体的内容

ホテルのランチバイキングで利用者同士、利用者と職員が和気あいあいの雰囲気でごすことができました。

- ⑥ 成果

それぞれの事業所の職員さんと利用者との交流～新しい出会いがあったと思います。

- ⑦ 今後の展望

今後も、利用者同士の交流を深め、関係性を高めてもらいたいと思います。

- ⑧ コロナ感染防止対策

会食では1テーブル4人とし、間仕切りも徹底しました。もちろん、食事以外はマスクを着用。食材を取りに行く際はビニール手袋を着用しました。



- ⑨ 収支報告

<収入>

<支出>

(円)

項目	金額	項目	金額
助成金	70,000	プラザオーサカ	82,000
自己資金	12,000	(ランチバイキング代)	
計	82,000	計	82,000

20 支 部 名： あいらぶ工房

- ① 実 施 日： 令和4年3月24日（金）
- ② 実施場所： 大阪ベイプラザホテル（堺市堺区少林寺町西1丁目1-1）
- ③ 対 象 者： あいらぶ工房 利用者37名・職員18名 計55名
- ④ 実施概要・目的

「あいらぶ工房親睦ランチ会」の実施

集団行動を通じて、利用者同士、職員との交流を図るとともに、対人関係、一般常識、社会性を育む。また、食事時のマナーも学習する。特に、この2年間はコロナ禍で交流行事が減ってしまったため、楽しく交流をしたい。

⑤ 具体的内容

11：30出発 — 大阪ベイプラザホテルで昼食 — 14：30帰着

※感染予防のためホテルの送迎バスを利用する。

⑥ 成 果

延期を繰り返して、ようやく交流行事を開催することができた。施設では感染予防の為外出行事を減らしたり、施設内行事を二部制にしたりしているため、全体での交流が減っている。ホテルの広い宴会場はみんなが揃っても密を防ぐことができ、また個々の席をパーテーションで区切ってくれていたため、安心して食事やお話をする事ができた。

久々のみんな揃っての食事・交流は楽しかったようで、施設に戻ってからもランチ会の話で盛り上がっていた。

⑦ 今後の展望

今後も、感染対策は気を緩められないが、感染予防に努めながら利用者が楽しみながら社会性を身につけられるような「集団」での学習や交流の場を提供していきたい。

⑧ コロナ感染防止対策

- ・公共交通機関を避けて、送迎バスを利用した。車内を密にしないため、2台に分乗した。
- ・食事交流会中の密を避けるため、職員は着席せず流動的に支援。職員は半数ずつに分かれて、別室で食事をとった。
- ・職員はマスクに加えてフェイスシールドを着用した。
- ・大き目の円卓を使用、一人ずつパーテーションで仕切った。



⑨ 収支報告

<収入>

<支出>

(円)

項目	金額	項目	金額
助成金	100,000	昼食、送迎代	297,000
自己資金	266,740	プロジェクター・スクリーン	30,000
		添乗員経費・取扱手数料	38,500
		振込手数料	1,540
		割引手数料	▲300
計	366,740	計	366,740

II 資 料

- 令和3年度支部活動等助成事業実施要項
- 令和3年度支部活動等助成事業実施支部一覧
- 大阪生活サポート協会の理念と事業

一般社団法人大阪知的障害児者生活サポート協会 令和3(2021)年度支部活動等助成事業実施要項

(助成事業の目的)

1. この事業は、一般社団法人大阪知的障害児者生活サポート協会(以下、大阪生活サポート協会という。)定款に則り、知的障がい児者・自閉症児者(以下障がい児者という。)とその家族の生活の安定と福祉の増進に寄与することを目的とした「支部活動等」に対し助成を行う。

(定義)

2. 「支部活動等」とは、大阪生活サポート協会会員(生活サポート総合補償制度に加入する者)が所属する施設・事業所等(以下、支部という。)の実施する事業及び複数の支部等が実施する協働事業をいう。

(助成の対象)

3. 助成事業の申請は、大阪生活サポート協会会員の所属するすべての支部を対象とする。

(助成対象事業)

4. 各支部が行う、次の事業に対し助成を行う。
 - (1) 障がい児者の日常生活支援に関する事業
 - (2) 障がい児者の就労支援に関する事業
 - (3) 障がい児者の権利擁護に関する事業
 - (4) 障がい児者の文化・芸術・スポーツ、地域交流、地域貢献等の事業
 - (5) 障がい児者の支援に従事する者の人材育成に寄与する事業
 - (6) コンサルテーション事業
コンサルタントによる相談・助言・情報提供等
 - (7) 事業所の第三者評価受審に係る事業
第三者評価機関による事業評価の実施
 - (8) 防災に関する事業
防災に関する研修、防災士等資格取得に係る助成等
 - (9) 家族(保護者会・家族会等)と協働で行う家族支援活動〔例：家族対象の研修会・催し物の開催〕に関する事業 ※助成申請は支部を通じて行うこと
 - (10) その他目的を達成するために必要な事業

(選考基準)

5. 選考に際しては、次の各項を勘案します。
 - (1) 新規申請支部を優先する。
 - (2) 緊急性が高いと判断される事業
 - (3) 先駆的、独創的な事業で、その効果が期待される事業
 - (4) 継続的な活動により、その効果が期待される事業(研修会・地域交流・人材育成等)
 - (5) 施設・事業所等の補修、改修、備品購入等に関する費用は、原則として助成対象としない。

(助成対象期間)

6. 令和3年4月1日から令和4(2022)年3月31日までの間に行われる事業を対象とする。

(助成金の範囲)

7. 支部活動等に対する助成金は、毎年度ごとの予算額の範囲内とする。
 - (1) 支部活動等への助成は年度内1回限りとし、助成額については、
会員5人以下：7万円を上限、会員6人以上：15万円を上限とする。
 - (2) 下記に示す地区ブロック単位で複数の支部が協働して事業を実施する場合は、事業内容・参加人

数等を考慮し、30万円を上限として助成する。複数の地区ブロックが合同で実施する場合も可とする。

- (3) 地区ブロック単位あるいは複数の地区ブロックが事業を実施する場合は、大阪生活サポート協会との共催事業とする。

※ 地区ブロックとは「北摂、北河内、中河内、南河内、泉州、堺市、大阪市」である。

- (4) コンサルテーション事業・第三者評価受審については、1事業所15万円を上限とする。

(手続き)

8. 助成金申請に関する手続きは下記のとおりとする。

- (1) 申請する支部は、様式1-1号・1-2号にて大阪生活サポート協会理事長あてに申請書及び予算書を提出しなければならない。(郵送)
- (2) 事業実施した支部は事業終了後1ヶ月以内(厳守)に様式2-1号・2-2号により、事業報告書及び決算報告書を提出しなければならない。ただし、令和4年(2022)3月に事業実施した場合は、4月20日(厳守)までに報告書を提出しなければならない。
- (3) 事業実施前、あるいは途中において内容の変更がある場合は、様式1-1号・1-2号により変更箇所を明らかにし、再度提出しなければならない。
- (4) 手続きに関する実施要項・様式は、当大阪生活サポート協会ホームページに掲載(添付)している。(ダウンロード可能。)

(審査/結果通知)

9. 提出された申請書に基づき理事会で審査した後に、助成の可否について申請した支部に通知する。
- (1) 助成決定支部には、助成額及び事業報告書・決算報告書(様式2-1号・2-2号)等について、メールあるいは文書にて通知する。

(助成金の交付)

10. 事業終了後1ヶ月以内に提出された事業報告書・決算報告書を理事会で審査した結果、適切な執行と認めるときは、助成額の範囲内であれば実績額を令和4年4月末までに指定の口座に振り込むこととする。ただし、助成額を超える場合は、各支部等の自己資金で賄うものとする。

(申し込み締切日時)

11. この事業の申し込み期日は、令和3(2021)年8月末日までとする。(当日消印有効。)

(その他留意事項)

12. 事業実施するに際して、以下の点に留意すること。
- (1) 事業実施に際しては、大阪生活サポート協会の助成事業であることを利用者・家族、関係者等に伝えるとともに、報告書に大阪生活サポート協会からの助成事業であることを明記した配布物や行事案内を、あるいは事業実施当日に表示されている状況(写真)を添付すること。
- (2) 大阪生活サポート協会からの助成事業であることを表示しない場合は、助成しないものとする。

附則 令和3年4月1日施行

～問い合わせ先・申請書類の提出先～

一般社団法人大阪知的障害児者生活サポート協会
〒542-0012 大阪府中央区谷町7丁目4番15号 大阪府社会福祉会館3F
TEL: 06-6764-6889 FAX: 06-6770-5988
E-mail: kyokai@osakasupport.or.jp

一般社団法人大阪知的障害児者生活サポート協会
令和3年度 支部活動等助成事業実施支部一覧

法人名	支部名	令和3年度		加入者数	概要
		決定金額	実助成金額		
1 (株) 業務企画センター	ビジネスプランニング センター	70,000	70,000	1	「コロナ禍における就業環境の整備・非対面事業推進の為にノートパソコン」の導入 コロナ禍においてはテレワーク等の導入で軽作業を担当できるスタッフが限られることと今後の就業を目指すにあたってより多様な業務を経験して欲しいという思いから、動画の編集事業をスタートさせた。そこでノートパソコンを導入し、動画の編集や音声の書き起こしや字幕への転写などに取り組んで、今後の業務拡大や事業の展開に備え人材育成へと結び付けたいと思い実行。動画処理の一連の作業をテレワークの中で仕上げることができた。動画作成サポートサービスの商品化し、契約も決まり、納品への作業もスムーズに進み、パソコン一台で、軽作業を担当しただけだった社員もテレワークに移行することができただけでなく、お客様に喜んでいただけた仕事を担当することができ、今後の就業や自立に向けて非常に大きな一歩を進めることができた。
2 (NPO) 光の友	ケアライフ光の友	148,500	148,500	10	「防災用ポータブル電源」の整備 令和3年10月6日 事業所として、避難確保資機材等の準備をしているが、ポータブル電源だけが調達できず困っていた。貴協会の助成事業として、避難確保資機材を購入することができ、万が一事業所内で避難することになった場合でも電源が確保でき安心である。近隣の方達にも役に立てることと思っている。 大阪市の通達により各事業所の防災を強化するために、防災マニュアル、点検、避難確保計画等を作成。ポータブル電源を避難確保資機材として準備し、いつ襲ってくるかわからない豪雨災害、また、地震などに対して、事業所内で避難できる体制を作り、利用者の安全を守ることを前提にこれからも避難訓練等を実施していきたい。
3 (社福) ふたかみ福祉社会	はびきの園	20,000	20,000	24	「食事会（飯前寿司を体験しよう）」の実施 令和3年10月8日 コロナ禍で利用者は外出の機会が少なくなっており、好きな食事を取ることができず機会が少なく、重度の障がいがあることから行動範囲に限られ、多様な経験ができず、そのため寿司職人を園内に招き、日本の伝統的な食事である寿司を味わってもらった機会を作った。当日の喫食時は注文に応じた形で寿司の提供を行った。施設ではできない職人の技術に触れること、味覚嗅覚など五感を刺激しながら取り組みを実施することができた。職人から目の前におかれた寿司下駄に一貫一貫ずつ、握りをおいももらい、寿司店でしか経験することができないような経験を目的とした場となった。
4 (社福) 大阪府肢体不自由者協会	守口障害者 支援センター ひだまり	100,000	80,427	12	「第8回ひだまり秋祭り」の開催 令和3年10月21日 職員と利用者が同じ時間を共有し楽しみ、交流を深めることを目的に実施。毎年利用者の社会参加、地域交流を目的に「ひだまり秋祭り」を開催していたが、昨年は新型コロナウイルス流行により開催中止となった。本年度より来場者を限定し、感染予防策を徹底した上で開催した。屋台や模擬店、ゲーム等の無料提供を行う事でコロナ禍で活動が大きく制限され、自衛生活を余儀なくされている利用者を楽しんでいただくことができた。またピンゴナームではたくさんの方に充実した景色を渡すことができた。来年度は、コロナ禍が落ち着き、ご家族や地域の方などを招くことができれば規模を拡大し、地域に密着した秋祭りを開催したいと考える。
5 (株) アベリア企画	ハマガキ広場	70,000	70,000	1	「口腔ケア研修及び親睦会」の実施 令和3年11月6日 協力歯科医院（歯科医師・衛生士）訪問による利用者対象歯科検診を実施した。当日は、歯科器材メーカーの方を招き口腔ケア用品（歯ブラシ・歯間ブラシ・ハミガキ剤等）の使用説明及びブラッシング指導を口腔ケア研修として実施。親睦会では、コロナ禍の中での生活制限の慰労を兼ね利用者・保護者・スタッフの親睦と保護者・スタッフ間の支援の方向性を確認と情報共有を図った。研修の実施により現状の口腔状態（虫歯の有無・歯石歯垢の付着状況等）の確認と、通常何気なく行っている歯ブラシによる磨き残しの有無の確認により適切な歯みがき（ブラッシング）の必要性を理解した。親睦会においては、保護者の参加が予定より少人数であったが、参加された保護者の方々はスタッフ一同情報の共有化がなされたと考える。

一般社団法人大阪知的障害児者生活サポート協会 令和3年度支部活動等助成事業実施支部一覧

法人名	支部名	令和3年度		加入者数	概要
		決定金額	実助成金額		
6 (社福) 北摂杉の子会	ジョブサイトひむろ	150,000	150,000	42	<p>「北摂杉の子会 収穫祭ランチフェスタ 2021」の開催 令和3年11月10日 高槻市内の法人3事業所の合同開催。利用者・職員・ふれいすBeに併設するカフェの昼食として農園産野菜を使った料理を提供。感染防止を徹底しながら、法人栄養士が献立立案し通常の給食と差別化を図るため、非日常的な弁当容器に盛り付けた。農園産野菜を使用した、法人内事業所の自主製品も献立に取り入れ、利用者の生産活動に対する達成感やモチベーション向上につなげた。非日常的な豪華な弁当は、多くの方に喜ばれ、食事風景を記事にし法人内に配布することですべての関わった方に感謝の気持ちを伝えられ、モチベーションの向上に繋がったと共に、職員間の関係性向上にも繋がった。</p>
7 (社福) 友遊福祉会	友遊の里	150,000	150,000	21	<p>「自然体験事業（榎田の自然から学ぶ ASOBI LAB）」の実施 令和3年11月13・20日 高槻市内の放課後デイサービス等の療育機関に対してチラシ等を配布し、①農業体験、②自然体験（クラフト活動・防災学習）を実施した。街づくりにコンサルトと協議し発達に課題のある小中高生が楽しむことのできる「ASOBI LAB」を実施した。参加した子どもたちは興味津々な様子で、シタケ狩りやクラフト活動、榎田地域の倒木の説明を聞き、活動中はお互い協力し合う姿が見られ、どの活動にも積極的に参加していた。 今後も、当事業をモデルとして障がいのある・ないに関わらず、子どもたちに自然体験事業を提供していきたい。</p>
8 (社福) 水仙福祉会	淡路こども園	150,000	150,000	15	<p>「改めて松本先生に聞く『本人主体の支援とは』～岡村理論に学ぶ～」職員研修会の実施 令和3年11月20日 今回、直接岡村先生のもとで研究されていた松本英孝氏を招き講演を開催。岡村理論の背景等を伺い、後半は主体的側面に着目し、支援することが何よりも大切と繰り返し述べられていたが、その中で文化・娯楽が人間にとって基本的要求として必要であること、障がいのある人の理解について現場から地域や社会に向けて実践からわかったことを発信していくことが私たちに求められているという話を聞き、仕事をしていく上で大きな指針となる内容であった。現場からの発信についてはどういう形で実現していくのか具体的に考えていきたい。</p>
9 (社福) さん・すまいる	さん・すまいる	150,000	150,000	8	<p>「避難所体験をしよう」緊急時の体験を実施 令和3年12月4日 実際に大阪駅前の津波によるシミュレーションCGによる津波の被害状況を映像で学習。また、緊急時の体験として、垂直避難訓練、水が引くまでの閉じ込められた時の訓練を実施した。車いす利用者は担架で3階に移動。ダンボールベッドの組み立て、防寒用シーツの利用、防災用毛布の使用など行なった。また防災食の試食・保存水の試飲、手動ラジオの体験も行った。簡易トイレやラジオは一部の方々の体験となったため、トイレを実際に使用できるかどうかの課題は残った。職員間で利用者を3階まで誘導する体験を行うことで利用者の動きを見ることができた。今後も洪水が起きた時のイメージは持つてもらえたと思うため、垂直避難訓練は定期的に実施していきたい。生き残るために食べること、排泄するという事に関しては大切であり、どの方にも対応できるように工夫を重ねていきたい。</p>
10 (社福) 晴友会	くるみの樹	150,000	150,000	13	<p>「くるみの樹 創立20周年記念昼食会・式典」の開催 令和3年12月8・17日 利用者や家族と一緒に記念行事を実施。昼食会では、新型コロナウイルスの影響で外食がしにくい中、寿司屋に出張してもらい、目の前で新鮮な寿司を握ってもらえ利用者・家族・来賓に喜んで頂けた。記念式典では20年の歴史を振り返るスライド上映・鏡開き・ダンス・マジックショーを楽しんだ。現在、創立当初を知っている職員がいない状況で、この事業を実施したことで、創立までの家族の苦労や思い等を知ることができ、原点に立ち返る良い機会となった。</p>
11 (社福) くるみ福祉会	夢工房くるみ	150,000	150,000	24	<p>「忘年会」の実施 令和3年12月25日 利用者・職員共にワクワク感を覚えている利用者の「楽しみ」の創出、また集団での意識を高めるため、みんなで頑張ったことを評価し、協働、助け合いの気持ちを再確認することを目的とした。普段の生活では、利用者個々に合わせた小グループでの活動が基本となるため、集団としての仲間意識が希薄になってしまいがち、全体行事は仲間意識を再確認する場として不可欠な取り組みであることが認識できた。</p>

一般社団法人大阪知的障害児生活サポート協会
令和3年度支部活動等助成事業実施支部一覧

	法人名	支部名	令和3年度		加入者数	令和3年度支部活動等助成事業報告(概要)
			決定金額	実助成金額		
12	(社福) おれんじ会	クッキー工房 おれんじはうす	70,000	70,000	3	「クリスマス会(カラオケ)」の開催 令和3年12月24日 カラオケ機材を借りてのクリスマス会の実施。コロナ禍の中でも楽しみを味わう機会を設けることを目的とした。コロナ禍の影響で、当初研修旅行を企画していたが中止となった。2年連続の中止で利用者は落ち込んでいたため、なんとか元気を、と職員、利用者と一緒に準備から開催まで楽しく行った。カラオケなどが楽しかったようであるとかコロナ禍の中でも、少しは気晴らしになったようである。利用者の元気を取り戻すことができたと大きなきっかけであった。今後、仕事だけでなく生活の上での娯楽も提供できるように考えていきたい。
13	(NPO) ナポレオン フィッシュ	ナポレオンフィッシュ	70,000	70,000	2	「出張回転寿司」の実施 令和4年1月14日 コロナ禍の影響でなかなかレクリエーション等の実施が難しく、特に事業所外への外出や外食イベントが実施できないため、外食気分を味わってもらうために福祉施設に特化して出張回転寿司を行っている業者に依頼した。コロナの影響で外食を控えている方が多いため、本格的な回転寿司の体験に満足そうな様子であった。また、業者も福祉施設に特化していたため実施自体スムーズに取り組みすることができた。今後も、余暇活動の提供については制限されることが多いが、安全にできることを模索しながら、作業だけでなくリフレッシュできる機会を設けていきたい。
14	(NPO) 福幸	フレンドリーII	70,000	70,000	2	「防災用発電機」の購入 令和3年10月4日 グループホーム運営。主に食材調理、携帯電話充電、夜間電機確保のためにスタッフ誰でもが安全に使いやすいソーラーパネルで充電もできるタイプの購入。スタッフにて使用方法の確認を行った。購入する事により、災害時に備えができてスタッフ、利用者共に災害時の安心につなげることができた。使い方も従来の物に比べても簡単に、スタッフ・利用者共に共有できた。今後、地域の方々とも連携し当方で発電機があるというアナウンスを拡げていきたい。また、より防災意識の向上に努めていきたい。
15	(社福) 風の会	風の会	150,000	150,000	10	「水耕栽培用備品」の購入 令和4年2月~3月 水耕栽培を就労作業に取り入れることで、障がいのある人に野菜の生産から販売まで通じた就労体験をすることやりがい、充実感、喜びを感じてもらおう。それに伴い、野菜の出荷、販売するための設備、道具を購入した。規格の大きさに育った野菜の色、形状、重量チェックをして収穫、水洗い、袋詰め、シーラー止めと一連の作業を購入した道具を使用する事で、作業を分担して行え、短時間で負担なくスムーズな包装作業が行えるようになった。
16	(合同) 美ノ倉	やすらぎの苑 中津	70,000	70,000	2	「コミュニケーション交流会」の実施 令和3年12月24日 事業所又は施設外にてコロナ禍の中、自粛生活を強いられている利用者、感染予防を徹底し、楽しい交流会を企画した。今回はビンゴゲームを行い、利用者自身でカードを選びリーチになった人は手を挙げて伝え、ゲームが苦手な人は近くにいる利用者が一緒に進んでゲームを進め、協力し合う場面が多く見受けられた。きちんと司会者の話を聞き、ルールを守り、楽しい雰囲気の中で交流会を行うことができた。利用者間でコミュニケーションもとれており、周りに思いやりや行動なども見られた。
17	(社福) 自立支援協会	ケアホーム アピカ	70,000	70,000	6	「災害発生時の電源確保のための発電機」の整備 令和4年3月21日 2018年9月4日台風21号の際、停電が3日間続いた。暗闇や暑さの中で生活支援は困難であった経験から停電になっても、発電機を使用して、入居者への支援を継続できるようにすることを目的に購入した。グループホームの防災訓練実施時にも使用を実施したい。発電機の作動についてサード管理責任者からホームスタッフへの伝達研修も実施し、使用方法の徹底を図りたい。また、入所者にも発電機の存在を知ってもらう。災害時でもグループホームの暮らしが継続できることを知ってもらう。

一般社団法人大阪知的障害児者生活サポート協会
令和3年度支部活動等助成事業実施支部一覧

	法人名	支部名	令和3年度		加入者数	令和3年度支部活動等助成事業報告(概要)
			決定金額	実助成金額		
18	(社福) 大阪手をつなぐ 育成会	支援センター中	70,000	55,140	6	「学習会(社会見学・コロナ禍におけるマスク会食)の実施 令和3年11月~令和4年3月 事業所に分かれ利用者の希望を聞きながら学習会を実施した。生活介護については新型コロナウイルス感染症拡大の中、新しい生活様式を学ぶ機会として「マスク会食」について学び、実践として会食を実施した。就労継続支援B型については、津波から自分を守る、大阪の歴史から生活の変化を学ぶ機会を選択してもらい、カップヌードルミュージアム、大阪くらしの今昔館、津波・高潮ステーションの各施設を見学した。
19	(NPO) ダ・カーポ	ダ・カーポ	70,000	70,000	5	「食事会」の実施 令和4年3月30日 コロナ禍の中、自粛生活を余儀なくされている利用者の生活を楽しく豊かにする活動として「新年会」を企画していたが、感染拡大のため延期。まん延等重点措置が解除されたため、新年度を迎えるにあたり利用者と職員の懇親を深めるために食事会を実施した。ホテルのランチバイキングで利用者同士、利用者と職員が和気あいの雰囲気ですごすことができた。普段交流の少ない各事業所の職員・利用者との新しい交流がもてた。
20	(社福) 大阪聴覚障害者 福祉会	あいらぶ工房	100,000	100,000	6	「あいらぶ工房親睦ランチ会」の実施 令和4年3月24日 集団行動を通じて、利用者同士、職員との交流を図るとともに、対人関係、一般常識、社会性を育む。また食事時のマナーも学習することを目的に実施した。延期を繰り返して、ようやく交流行事を実施することができた。ホテルの広い宴会場は密を防ぐことができ、また個々の席をパーテーションで区切っていただくため、安心して食事を楽しむことができた。今後も感染予防に気をつけながら、利用者が楽しみながら社会性を身に付けられるような「集団」での学習や交流の場を提供していきたい。
			2,078,500	2,014,067		

理念

知的障がい児者・自閉症児者一人ひとりが地域の中で「自分らしく生きる」ために各種事業と補償制度で支えます

大阪生活サポート協会は、全国知的障害児者生活サポート協会と連携し、助け合うという互助の精神を柱に、知的障がい児者・自閉症児者の皆さまをかけがえのない存在として捉え、安全・安心に、より豊かな生活が送れるよう支援しています。



事業

会員・その家族、 支部（事業所等） への支援

会員（本人）支援

- 日常生活支援 ● 就労生活支援 ● 表現活動支援 ● 権利擁護
- スポーツの振興 など

家族支援

- セミナー ● 研修会 など

支部（事業所等）支援

- 支部活動等助成事業 ● 地域密着型活動支援（事業所間連携・協働事業など）

地域支援 〈地域における支援の 仕組みづくり〉

表現活動支援（本人支援）

- 作品展示（ホームページ、YouTube 発信、展示会開催など）
- 地域にお住まいの方への支援もします

人材育成（支援者支援）

- 研修会等の開催 ● 事業所等の連携・協働の推進

調査研究

- 共同生活援助（グループホーム）の実態把握 など

相 談

なんでも相談

- ホームページに相談窓口を設置しています

補償制度

AIG 普通傷害保険

- 大阪生活サポート協会にご入会いただくと補償制度をご利用いただけます

生活サポート総合補償制度

引受保険会社：AIG 損害保険株式会社

保険代理店：ジェイアイシーウエスト株式会社



令和 3 年度 支部活動等助成事業報告書

令和 4 (2022) 年 7 月 発行

発行人 安本 伊佐子

発行 一般社団法人 大阪知的障害児者生活サポート協会
(大阪生活サポート協会)

〒542-0012 大阪府中央区谷町 7 丁目 4 番 15 号
大阪府社会福祉会館内

TEL : 06-6764-6889 FAX : 06-6770-5988

E-mail : kyokai@osakasupport.or.jp

URL : <https://www.osakasupport.or.jp>
